

事業名 藤子食堂

事業主体 名称：藤子食堂
住所：和気町藤野

事業実施場所 藤野民宿

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

子どもの貧困が社会問題化される中、私たちの地域には、子どもたちが気軽に立ち寄り、食事を取りサポートを受けられる場がとても少ないのが現状でした。そのため、昨年より任意団体を設立し、活動を始めてきました。スタートして一年弱ですが、定期的を開催することで、子どもたちや地域の方々から嬉しい声や、気にかけて声をかけてもらったりと、少しずつではありますが、藤子食堂として認知度が上がっているのを実感しております。この地域でまずはしっかりと子どもの食のサポートをはじめ、立ち寄れる場所として浸透し子どもたちの身体的・心理的サポートを行いたいと考えており、今後も月1回定期的に開催をしていきたいと考えています。

また食事提供だけでなく、自分で作るという体験機会の提供、地域の方々や高校生ボランティアの受入れなどによる多世代交流の場の提供を目指し、地域ネットワークを大切に活動していきたいと考えています。

～事業実施内容～

世代間交流事業 居場所づくり

<第1回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計20名(保育園児1名、小学生13名、中学生6名)
- ③日時 令和5年7月24日(月)
- ④場所 藤野児童館
- ⑤内容 好きな具材でサンドイッチづくり、お絵描き、和気閑谷高校生ボランティア受入れ



⑥活動の成果等

自分たちで好きな具を挟みサンドイッチづくりを行った。パン屋さんで働いていた方にお手伝いをしてもらい、色々なサンドイッチを作り見本で置いておくと、みんな思い思いのパンと具を取り作っていた様子だった。和気閑谷高校生のボランティアが2名来てくれ、配膳の手伝い、また子ども

たちとの遊び相手をしてくれた。一緒にお絵描きをしたりゲームをしたりと、小さい子とよく交流してくれた。暑い日だったが児童館の組み立て遊具などを出し、室内で沢山体を動かすことができた。

<第2回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計 32 名（保育園児 3 名、小学生 20 名、中学生 6 名、大人 3 名）
- ③日時 令和 5 年 8 月 7 日（月）
- ④場所 藤野児童館
- ⑤内容 食事提供、絵画講師による絵の宿題サポート、綿あめ機で綿あめづくり、和気閑谷高校生ボランティアの受入れ、フードバンクから寄付された物品配布



⑥活動の成果等

夏休み活動の一つとして、地元で美術講師の資格を持つ方に来てもらい、絵の宿題サポートを実施。この日に書いて宿題を終わらせようと思って準備をしてきた子もいて、真剣に絵を書くことができた。また用意していない子でも、絵を書くのが好きな子が一緒に絵を書いていたりと、ゆったり穏やかな時間となった。綿あめづくりでは、近所の方に綿あめ機をお借りし実施したところ、大好評だった。和気閑谷高校の生徒がボランティアで来てくれ、食事の配膳などから、綿あめづくりのサポートを積極的に行ってくれ、とても頼りになったと同時に、子どもたちも親しく話し交流の場となった。

<第3回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計 20 名（保育園児 2 名、小学生 13 名、中学生 1 名、大人 3 名、祖父母世代 1 名）
- ③日時 令和 5 年 8 月 21 日（月）
- ④場所 藤野児童館
- ⑤内容 食事提供、ベビークラスターづくり、ミシンで新学期用の雑巾づくり、トランプ、ドッチボール、フードバンクから寄付された物品配布



⑥活動の成果等

景品用のタオルを沢山いただいたため、それを使って新学期用の雑巾づくりを行った。初めてミシンに触る子もいたが、作り方を覚えられるようになった子が、次に作る子に作り方を教えてあげるなど、大人がいなくとも子どもたちだけで教えあい共に作ることができ、成長を感じた。またベビーカーづくりでは、自然と子どもたちやボランティア同士で会話も弾み楽しい時間となっていた。

<第4回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計40名（保育園児5名、小学生23名、中学生8名、大人4名）
- ③日時 令和5年9月30日（土）
- ④場所 藤野民宿
- ⑤内容 食事提供、お月見団子づくり、ボードゲーム、カードゲーム



⑥活動の成果等

近所に子ども食堂のような場所がないのでと隣町の方が足を運んでくれた。子ども食堂のような集える場所を必要としている人は様々なところにいるのだと感じた。この日は、お月見団子をみんなで作り茹でて食べた。「家で作ったことない」「はじめて触る」という小学生もいて、初めての体験にみんな楽しく作ることができた。また、申込連絡はなかったものの、以前来ていた子達が日程を覚えていてくれたようで久々来てくれ、予約していない子も配布チラシには目を通して気にしてくれていることがわかり、継続発信の重要性を再認識した。

<第5回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計47名（保育園児6名、小学生13名、中学生16名、大人8名、祖父母世代4名）

- ③日 時 令和5年10月28日(土)
- ④場 所 藤野民宿
- ⑤内 容 食事提供、ハロウィンスタンプラリー(地図を持ち近所のハロウィンマークの付いた家を探す。3か所。家に行き「トリックオアトリート」と言うとお菓子がもらえる)、学生ボランティアによるバルーンアート作り



⑥活動の成果等

ハロウィンスタンプラリーは、小さい子はもちろん中学生も楽しんで行っていた。参加者からは「こんなところに道があるなんて知らなかった!」「全クリだ!」と楽しみの声が、ラリー先であるご近所の方は、「子どもたちの元気な声が聞けて嬉しかった」「礼儀正しい子が多く感心した」などの声が聞かれた。来てくれた中学生の親御さんから、「部活帰りの食事を用意しなくて助かる」との声が聞かれた。

<第6回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計39名(保育園児5名、小学生22名、中学生1名、高校生1名、大人10名)
- ③日 時 令和5年12月9日(土)
- ④場 所 藤野民宿
- ⑤内 容 食事提供(クリスマスメニュー…お稲荷さんトナカイ、バームクーヘンをクリスマスツリー風アレンジ)、おかやまコープさんからいただいたお菓子の配布、仕事について大人との対話、学生ボランティアによるバルーンアート作り、和気町社会福祉協議会さんからお借りした輪投げ・ゲートボールでの外遊び



⑥活動の成果等

12月ということでクリスマスメニューにしたが、少しの工夫で喜ぶ子どもたちの声が聞かれた。バルーンアートはいつも人気で、この日も大学生ボランティアと動物や剣などを作ってもらっていた。また、参加者の方が、子どもたちと遊ぶために風船を沢山持ってきてくれ膨らませてくれたり、自由に持って帰ってと言いつづを持ってきてくれ、自主的に誰かのために動いてくださる方が

いてとてもありがたかった。様々な仕事をしてきた方に、仕事について話を聞く場を作った。どんな仕事か漠然とでもいいので考え続けること、働き方も仕事もいくつになっても挑戦できるという話をしてくれ、子どもたちも真剣に聞くことができた。

<第7回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計 39 名（保育園児 2 名、小学生 18 名、中学生 8 名、専門学生 1 名、大人 7 名、祖父母世代 3 名）
- ③日時 令和 6 年 1 月 6 日（土）
- ④場所 藤野民宿
- ⑤内容 お餅つき、おかやまコープさんからいただいたお菓子の配布、和気町社会福祉協議会さんからお借りした輪投げ・ゲートボールでの外遊び、焚き火でのマシュマロ焼き、大人との対話



⑥活動の成果等

お餅つきは初めてという声が多く聞かれ、子どもたちは皆一生懸命お餅つき、ついたお餅を丸めていく作業を行っていた。近所のおばあちゃんにお餅つきのサポート・アドバイスに来てもらったが、おばあちゃん達からも「普段子どもたちと接することがないから楽しかった」という声が聞かれた。今回も部活帰りの中学生がご飯を食べに立ち寄ってくれ、冬休みの楽しかった思い出に「藤子食堂」について書いてくれた子もいるようで、子どもたちの楽しい時間にできた。

<第8回>

- ①事業名 藤子食堂
- ②参加人数 計 42 名（保育園児 8 名、小学生 22 名、中学生 3 名、大人 9 名）
- ③日時 令和 6 年 2 月 17 日（土）
- ④場所 藤野民宿
- ⑤内容 食事提供、桜もちづくり、ボードゲーム、鬼ごっこ



⑥活動の成果等

桜餅を自分で作るという体験を実施。「自分で作るのははじめて」「塩漬けの葉っぱもおいしかった」という声も聞かれ、思い思いに作り楽しんで食べていた様子だった。たまに来てくれていた小学生がキッチンの盛り付けのお手伝いをしたいとのことで急遽お手伝いをしてくれた。楽しかったのでまた手伝いにきたいと言ってくれており、場に親しんでくれていることに喜びを感じるとともに、よりお手伝いをしやすい環境を構築していけたらいいなと感じた。また受験に合格したと報告がてら嬉しそうな顔を見せに来てくれる中学生がいて、立ち寄って声をかけてくれる関係性が少しずつ築けているのかなと感じた。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

月1回というまだまだ回数的には少ない開催ながらも、継続していることで、地域の方や学校関係の方、また保護者の方からも信頼を得てきているのを実感している。子どもたちも「次いつなの？」と毎回楽しみにしてくれていたりと、中学生においては、ちょうど部活のあるタイミングも多く、部活帰りに食べて帰るといった流れが出来ているようで、継続することで認知度が上がってきているのを感じている。

○今後の課題・展開

いつも同じ参加者が来ていて、新しい参加者がなかなか増えていかないの、今後学校でのチラシ配布のみならず、どのように告知していくかなど検討していきたいと思う。ボランティア集めや食材協力にもまだ苦戦している状況なので、早めにスケジュールを立てて役場や民生委員の方にも引き続き協力を得ながら、幅広く宣伝を行っていききたいと思う。また、今までは調理担当ばかりをメインにボランティアを募集していたが、参加してくれている子どもたちが増えてきていることもあり、子どもの遊びや対応をしてくれる当日のボランティアの方などを積極的に増やしていきたいと考えている。

これまでは食事の場の機会提供がメインで、フードバンクさんから物品提供などがあつた際にのみ物品配布を行っていたが、今後同じような形で活動を継続していくのか、また例えばフードバンクと連携し、毎回フードパントリーを行えるようにしたらどうかなども考えるべきことかと思っているので、他の子ども食堂・居場所の事例なども学びながら、この地域での子ども食堂のより良い在り方を構築していきたいと思う。

○まとめ

毎回不安を感じながらの開催ではあるが、開催すると皆「楽しかった」「また来るね」などと言い笑顔で帰ってくれたり、また親御さんからも「こういった場所があつて助かる」という声や、地域の方からも賑やかになって嬉しいなどのポジティブな声が寄せられ、暖かい場所を作り出せていることに喜びを感じています。

ただ、サポートが必要な子にきちんと情報が届いているか、また来ている子へも一人ひとりに目を配った対応ができていないか、まだまだ課題も多いと考えています。引き続き継続開催しながら、運営スタッフのスキル向上や専門知識の習得をはじめ、学校や行政・地域の方々との横連携をより構

築し、一回一瞬ごとに出会う子どもたちを全力で受け止め、一層安心して来てもらえる場になるよう取り組んでいきたいと思います。